

か。行政の責任放棄との発言に、さみしさを感じたのは私一人ではなかったと思います。無理解な組織・担当者が数多くいるであろうことは、十分推測できます。そのことを踏まえた上で、時々担当者が異動したり、行政の対応が変化することがあったとしても、変わらず史料保存の必要性を歴史学という専門的な立場をもって、継続して訴え続けていくことが可能なのが学者・研究者の皆さんなのではないでしょうか？

そういうわけで、行政に携わっている人間として非常に残念なのは、研究者との対立・対置関係の中に置かれる行政という構図です。行政は、史料ネットの皆さんにとって敵なのでしょうか？ 会場に集まっておられた方の大半は、多かれ少なかれ、行政に何らかの関係をもっておられるのではないのでしょうか？ 市民への歴史意識の喚起にける情熱と行動は、少なくとも同様・同量に行政にも振り当てられべきではないのでしょうか。そう考えることは、行政側の、むしのいい甘えなのではないのでしょうか？

行政として史料保存を位置付ける責務があること。そして、一般市民が市民として史料保存活動を行い、行政に対してもその必要性を提示していくことはあって然るべきでしょう。それと同様に歴史学者・研究者が、研究者としてしか出来ない見地から、行政組織内に着実に発言力を増していく、そういう地道で目立たない活動が何十年先に、史料保存を当然のこととして位置付ける組織の林立として花開くのではないのでしょうか。そういう、両側からギャップを埋める活動の可能性はないのでしょうか？

史料ネットが意図されている市民への働きかけが、住民運動としての史料保存だけであるならば、本日発表された趣旨で意は通じるのでしょう。それも、非常に重要なことだと思います。ただ、まわりまわって最終的に行政に立ち帰っていく本質の問題であるならば、今のうちから、正面から着実に行政に影響力を高めていく行動を起こしておく必要があると思うのです。そうでなければ、史料ネットの活動は、行政不信を抱えたまま袋小路に入り、抜け出る道を失ってしまうと考えざるを得ないのです。

発表者の皆さんは、地域での着実な実践をなさっている方だと認識していますので、本日の論点を際立たせる必要上、大げさに区別なさったのだとは思いつつ、気にかかりましたので、

未消化ながら一文を寄せさせていただきました。

#### ■匿名希望

資金づくりのカンパは、研究会大会等での呼びかけだけでと感じます。恐らくカンパだけでは大きな不足とは思いますが、会員に寄付を募るよりも、会場で呼びかけて頂いた方が、少額でも出しやすいのですが。

市民講座を阪神地区だけでなく京阪間でも催して頂きたい。阪神間を中心に各研究会でも討論会を行い、支援の輪を広げてゆけばと思います。但し、市民講座も継続し、研究者に限らず幅広く人々に呼びかけてほしいと考えています。

史料館が中心となり、研究者の参加が多かったことが運動の継続につながったと思いますが、地域性もあると思います。歴史学の研究に対して人々が理解を示し、また一般の人々が進んで参加する思想があったのではないのでしょうか。また行政に対しては、金銭上の問題があるでしょうが、例えば公民館等での講座開催と市民参加の考え方を元にして働きかける、つまり場所の提供を求めていると思います。少々議論がかみ合わずに終わってしまったと思うので、これからも討論会を開いて欲しいものです。

#### ■匿名希望

歴史学会において、やはり「史料」は大変重要なものなので、研究者が史料を追及していくことは基本的態度である。住民への還元について、住民がどのような要求を持っているのか、つまり住民がいかに史料に興味を持ち、何を望んでいるのかに関わってくるので、研究者の自己満足のみで終わってはならない問題である。

#### ■匿名希望

私は、史料ネットの活動過程でなかば強制的に活動への参加が要求された例をいくつか知らされている。これは、そもそもボランティア団体として発足した史料ネット内部で十分な共通認識ができておらず、個々人のなかで史料ネットの位置付けがバラバラになっていた、ということを表している。もちろん私は史料ネットの設立意義を否定するのではなく、何よりも歴史学を地域住民とともに考えていく上でも、極めて有益なものであることを認めている。しかし、だからこそ改めて史料ネット内部の共通認識を再確認し、固め、以後の活動を持続的かつ強固なものとしていくことが必要であると考えます。